令和６年度

全国学力・学習状況調査

＝留萌市における調査結果の概要＝

Ⅰ　調査の概要・・・・・・・・・・・　１Ｐ

Ⅱ　教科調査結果の概要　・・・・　２Ｐ

Ⅲ　質問紙調査結果の概要　・・・　12Ｐ

Ⅳ　おわりに　・・・・・・・・・・・　23Ｐ

令和６年１１月

留 萌 市 教 育 委 員 会

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査の対象

小学校第６学年、中学校第３学年　原則として全児童生徒

３　調査の内容

（１）　児童生徒に対する調査

①　教科に関する調査（国語、算数・数学）

ア　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能　等

イ　知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力　等

※上記のアとイを一体的に問う調査問題

②　学習や生活の諸側面等に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習習慣、生活習慣　等

（２）　学校に対する質問紙調査

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況　等

４　調査実施日

令和６年４月１８日（木）

５　調査を実施した学校・児童生徒数

	小　学　校		中　学　校	
	実施学校数	児　童　数	実施学校数	生　徒　数
全　国(公立)	18,466 校	947,579 人	9,268 校	875,952 人
北海道(公立)	932 校	34,531 人	566 校	33,614 人
留　萌　市	5 校	84 人	2 校	92 人

※実施学校数・児童生徒数は、「令和６年度 調査結果のポイント（北海道教育委員会)」による。

６　調査結果の解釈等に関する留意事項

（１）　本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

（２）　本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握･分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

備　考

※全国平均との差に関する表現について

・７％以上　　相当高い　　相当低い
・５％以上　７％未満　　高い　　低い
・３％以上　５％未満　　やや高い　　やや低い

※文部科学省は平均正答率について、整数値で公表しているが、留萌市では、進めてきた指導改善の成果を検証するため、従来のデータと整合性をもたせた分析が必要と判断し、提供されたデータをもとに独自に算出した小数値で示している。

Ⅱ　教科調査結果の概要

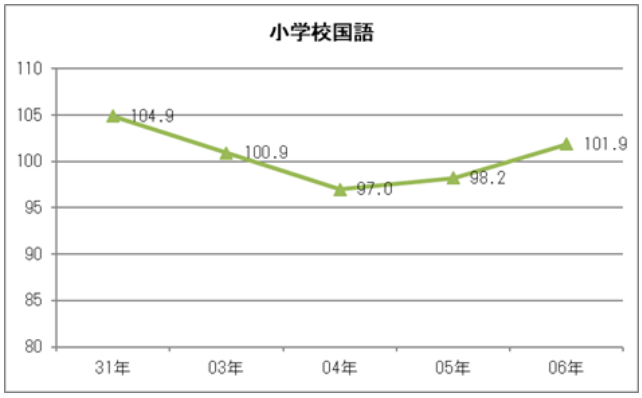
1　平均正答率から見る学力の状況

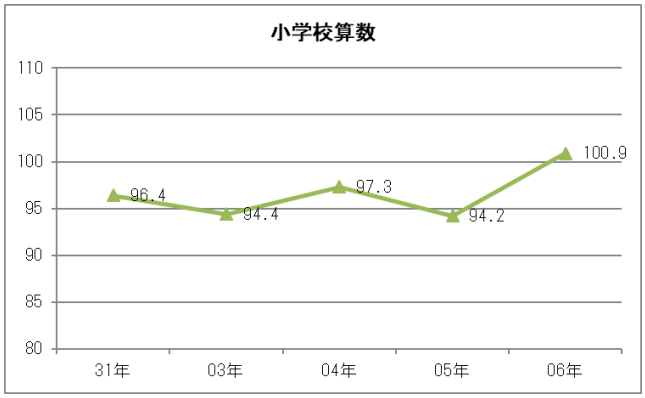
（1）　令和６年度各教科の平均正答率（%）と全国・北海道との差

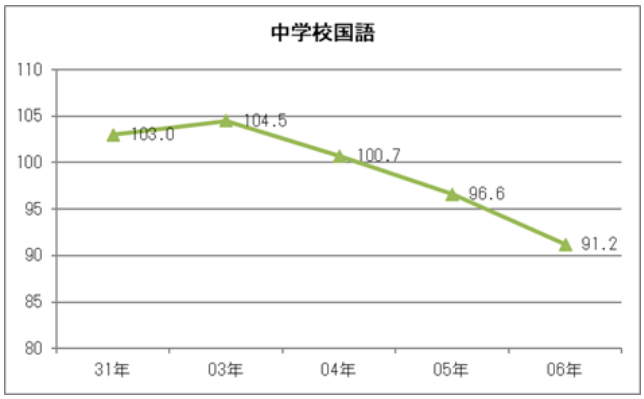
	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
留萌市	69.5	63.9	52.5	47.4
北海道	66.8	60.6	57.6	51.0
全国	67.7	63.4	58.1	52.5
北海道との差	＋2.7	＋3.3	－5.1	－3.6
全国との差	＋1.8	＋0.5	－5.6	－5.1

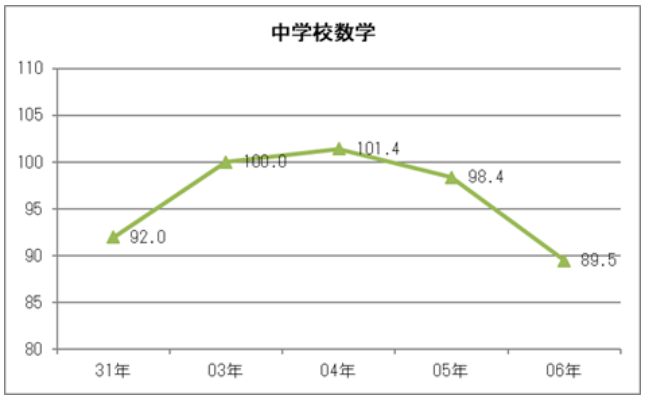
（2）　全国の平均正答率を 100 としたときの留萌市の平均正答率の推移

※調査問題が異なり、平均正答率を単純に比較することができないため、全国の平均正答率を100とし、それに対する平均正答率の推移を示している。（令和２年度は、コロナ禍のため中止）









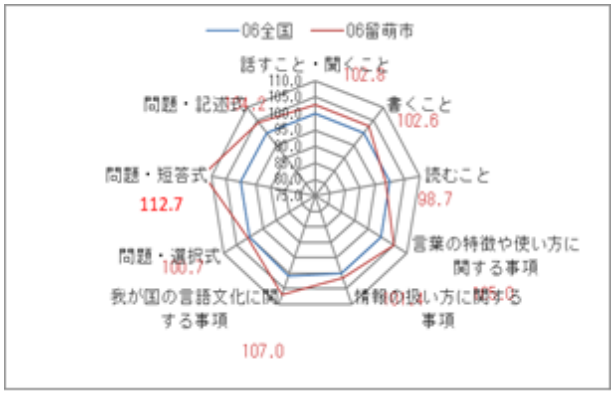
◆国語は、全国の平均正答率を小学校で１．８ポイント上回り、中学校で５．６ポイント下回った。算数・数学は、全国の平均正答率を小学校で０．５ポイント上回り、中学校で５．１ポイント下回った。

◆全国の平均正答率を100とすると、小学校の国語は１０１．９ポイントとなり、平成３１年度（令和元年度）からの５年間の中では２番目に高い正答率となった。また、小学校の算数は１００．９ポイントとなり、平成３１年度（令和元年度）からの５年間の中では最も高い正答率となった。中学校は、国語は９１．２ポイントで９．８ポイント、数学は８９．５ポイントで１０．５ポイント、いずれも平成３１年度（令和元年度）からの５年間で最も低い正答率となった。

２　小学校国語

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.7問／14問	６９．５％
北海道	9.3問／14問	６６．８％
全　国	9.5問／14問	６７．７％

（領域別の平均正答率の状況～全国を100とする）



（１）　「領域別・問題別正答率」の傾向

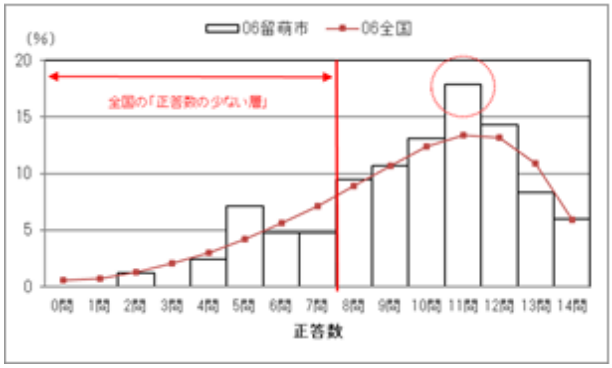
◆全ての領域で、全国と同程度となっている。

◆選択式と記述式の問題は、全国と同程度となっており、短答式の問題は、全国と比べて相当高くなっている。

（２）　「正答数分布」グラフの傾向

◆14問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国と同様に11問である。

◆正答数が11問の児童数の割合が、全国と比べてやや高くなっている。



（３）　設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H31	12／14問
R３	６／14問
R４	７／14問
R５	５／14問
R６	９／14問

②平均正答率が全国以下の設問から（※３ポイント以上の差がある問題）

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
話すこと・聞くこと	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する。	６０．７％	６３．８％
読むこと	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する。	６３．１％	６６．９％

◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇

【話すこと・聞くこと】

○目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する

・伝え合う内容を検討する際に、自分が伝えたいことと聞き手の求めていることに応じて情報を整理するように指導するとともに、学習活動を振り返る場面を設定し、情報を整理することのよさを考えることができるようにすることが重要である。その際、目的や意図に応じて聞き手が知りたいことを想定して、内容を検討することができたかという視点をもたせることが大切である。

【読むこと】

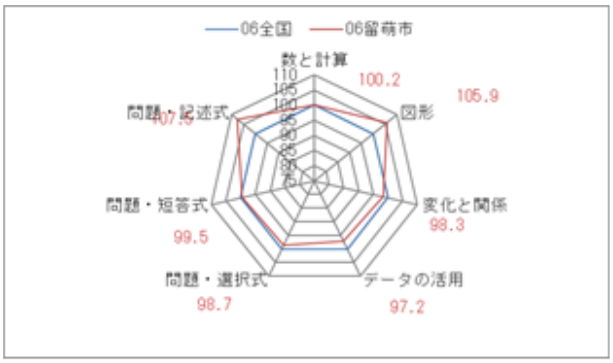
○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える

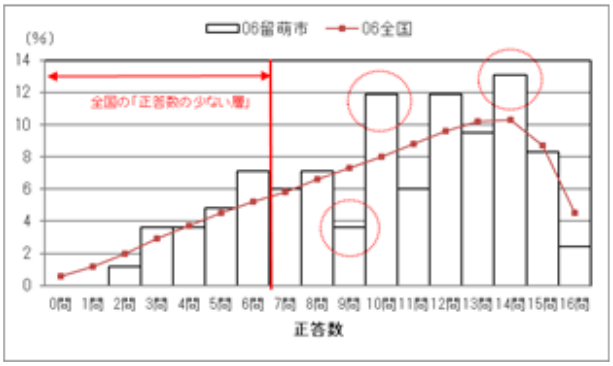
・登場人物の相互関係や心情などを捉えるためには、描写に着目しながら読み進めていくことが重要である。登場人物の心情は直接的に描写されている場合もあるが、暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら読むことが大切になる。

３　小学校算数

	平均正答数	平均正答率
留萌市	10.2問／16問	６３．９％
北海道	9.7問／16問	６０．６％
全　国	10.1問／16問	６３．４％

（領域別の平均正答率の状況～全国を100とする）





（１）　「領域別正答率」の傾向

◆「図形」の領域は、全国と比べて高く、他の３領域は、全国と比べて同程度となっている。

◆記述式の問題は、全国と比べてやや高く、短答式と選択式の問題は、全国と比べて同程度となっている。

（２）　「正答数分布」グラフの傾向

◆16問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国と同様の14問である。

◆正答数が10問の児童数の割合が、全国と比べてやや高く、正答数９問の児童数の割合が、全国と比べてやや低くなっている。

（３）　設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H31	５／14問
Ｒ３	４／16問
Ｒ４	４／16問
Ｒ５	５／16問
Ｒ６	11／16問

②平均正答率が全国以下の設問から（※３ポイント以上の差がある問題）

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる。	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ。	４８．８％	６２．１％
変化と関係	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる。	３分で180ｍ歩くことを基に、1800ｍを歩くのにかかる時間を書く。	６１．９％	７０．０％
データの活用	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる。	示されたデータから、1960年代のＣ市について、開花日が３月だった年と４月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く。	６９．０％	７３．３％
データの活用	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。	折れ線グラフから、開花日の月について、３月の回数と４月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について３月の回数と４月の回数の違いを書く。	３６．９％	４４．０％

◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇

【数と計算】

○問題場面を図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにする

・数量の関係をつかみにくい問題の解決において、問題場面を図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが重要である。指導にあたっては、数量の関係をつかみにくい問題の解決において、図などを用いて、数量の関係を整理する活動が考えられ、問題を読み、「多い」のだから加法、「少ない」のだから減法のように形式的に立式するのではなく、問題場面を図に表し、その図と問題文のそれぞれの数量の関係を比較し、捉えることができるようにすることが大切である。また、図を基にして、式に表すことができるようにすることも大切である。

【変化と関係】

○二つの数量の関係に着目し、その関係を用いることができるようにする

・速さが一定である場合について、道のりと時間の関係について考察できるようにすることが重要である。指導にあたっては、３分間で180m歩くのと同じ速さで歩き続けると1800m歩くのに何分かかるかを考え、説明する活動が考えられ、1800mが180mの10倍であり、速さが一定であることから、道のりが10倍になればそれに伴って歩くのにかかる時間も10倍になることを用いたり、１分間あたりに進む道のりを求めてから、100m歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係を用いたりすることができるようにすることが大切である。

【データの活用】

○目的に応じて、必要なデータを取り出して、分類整理し、表に表すことができるようにする

・目的に応じて、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理し、表に表すことができるようにすることが重要である。指導にあたっては、本設問のように、住んでいる地域の過去の桜の開花日を調べ、月別の回数を表に分類整理する活動が考えられ、開花日は何月が多かったかを明らかにしたいという目的に応じて、整理する観点を決めることができるようにすることが大切である。

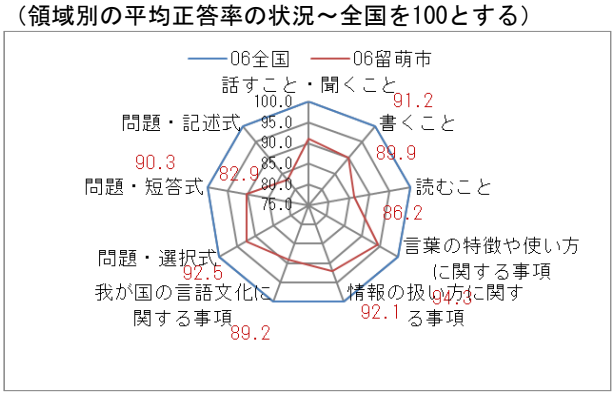
○グラフを読み取り、見いだしたことを表現できるようにする

・日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分を基に、必要な情報を読み取ったかを表現できるようにすることが大切である。指導にあたっては、本設問を用いて、３月の回数と４月の回数の折れ線グラフを読み取って捉えたことを伝え合う活動が考えられる。その際、グラフの傾きや重なりなどに着目して、データの特徴や傾向について捉えるとともに、折れ線グラフの数値を読み取り、３月の回数と４月の回数の差を正しく求めることができるようにすることが大切である。

4　中学校国語

	平均正答数	平均正答率
留萌市	7.9問／15問	５２．５％
北海道	8.6問／15問	５７．６％
全　国	8.7問／15問	５８．１％

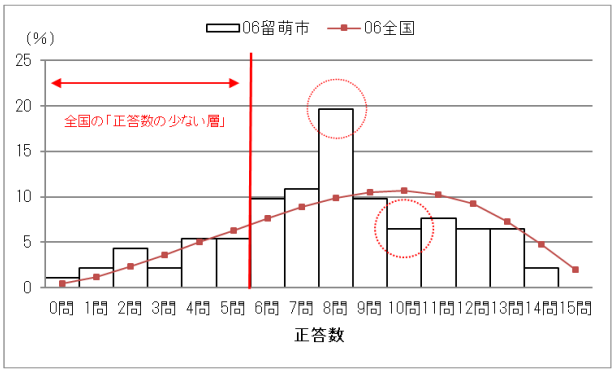
（領域別の平均正答率の状況～全国を100とする）



（１）　「領域別・問題別正答率」の傾向

◆言葉の特徴等と情報の取扱等に関する事項は全国と比べてやや低く、我が国の言語文化等に関する事項は、全国と比べ相当低くなっている。

◆選択式の問題は、全国と比べやや低く、短答式の問題は、全国と比べて低く、記述式の問題は、全国と比べ相当低くなっている。



（２）　「正答数分布」グラフの傾向

◆15問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国の10問に対して８問である。

◆正答数が８問の生徒数の割合が、全国と比て高く、正答数10問の生徒数の割合が、全国と比べて低くなっている。

（３）　設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H31	８／10問
Ｒ３	11／14問
Ｒ４	５／14問
Ｒ５	８／15問
Ｒ６	１／15問

②平均正答率が全国以下の設問から（※３ポイント以上の差がある問題）

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる。	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する。	５５．４％	６３．２％
話すこと 聞くこと	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる。	話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を〇で囲む。	６３．０％	６８．５％
情報の扱いに関する事項	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する。	３７．０％	４４．０％
読むこと	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する。	２７．２％	３６．３％
読むこと	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる。	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。	３１．５％	４２．６％
書くこと	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する。	７８．３％	８１．４％
言葉の特徴や使い方に関する事項	文脈に即して漢字を正しく書くことができているかどうかをみる。	漢字を書く。 （みちたりた）	６４．１％	６８．８％

書くこと	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる。	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。	３９．１％	４９．３％
言葉の特徴や使い方に関する事項	表現の技法について理解しているかどうかをみる。	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する。	５０．０％	５４．９％
読むこと	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える。	４０．２％	４８．３％
我が国の言語文化に関する事項	行書の特徴を理解しているかどうかをみる。	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。	６７．４％	７５．６％

◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇

【話すこと・聞くこと】

○話の内容を正確に理解するために質問する

・質問する際には、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要である。その際、第１学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」の「紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。」などの言語活動を通して、適切な機会を捉えながら、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、目的や状況に応じて質問できるように指導することが大切である。

【話すこと・聞くこと】

○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す

・聞き手に自分の考えを伝える際には、分かりやすく伝わるように資料を用いるなどして表現を工夫することが重要である。資料を用いるのは、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、聞き手に分かりやすく伝えるためである。このことを踏まえて、資料や機器を適切に用いることができるよう指導することが大切である。

【情報の扱いに関する事項】

○意見と根拠など情報と情報の関係を理解し、話や文章の中で捉える

・相手の考えを理解したり自分の思いや考えを表現したりするためには、原因と結果、意見と根拠など、話や文章に含まれている情報と情報との関係について理解することが重要である。その際、意見とそれを支える根拠がどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることができるように指導することが大切である。

【読むこと】

○文章と図表などを結び付け、内容の理解に生かす

・図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれるのかを考えることが重要である。

【読むこと】

○目的に応じて必要な情報に着目して要約する

・要約するとは、文章の全体又は部分を短くすることである。概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて内容や分量、方法が異なる。そのため、要約する際には、目的を明確にすることが大切である。

【書くこと】

○目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする

・物語を創作する際には、目的や意図に応じて題材を決め、伝えたいことを考えながら、書くための材料を集める必要がある。その上で、伝えたいことが明確になるように、材料を比較しながら取捨選択したり、関係付けをしてまとめたりするなど、集めた材料を整理することが大切である。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

○漢字を正しく用いる態度や習慣を養う

・漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。漢字の書きについては、漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度や習慣等を養うことが大切である。また、１人１台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択する力を養うことが重要である。さらに、文章の中ばかりではなく、「話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することが大切である。

【書くこと】

○自分の伝えたいことが伝わるように、表現の効果を考えて工夫して書く

・自分の考えが伝わる文章になるように工夫する際には、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けしたりする上で、どのように働いているかを確かめながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが重要である。その際、自分が読み手に伝えたいことを明確にし、ねらいに応じた表現の工夫ができているかを確かめることができるように指導することが大切である。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

○具体的な表現と結び付けながら、表現の技法について理解する

・文学的な文章を味わうには、用いられる語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。特に、短歌や俳句などは、限られた音数の中で情景や心情を伝えるために表現を工夫していることを踏まえ、描写の仕方や表現の技法などに着目することができるように指導することが大切である。

【読むこと】

○描写を基に、短歌の内容を豊かに捉える

・短歌や俳句などを読み味わう際には、描写などに着目し、心情や情景を想像しながら読むことが大切である。その際、細部の描写にも着目しながら、物事の様子や場面などを丁寧に捉えることができるように指導することが重要である。

【我が国の言語文化に関する事項】

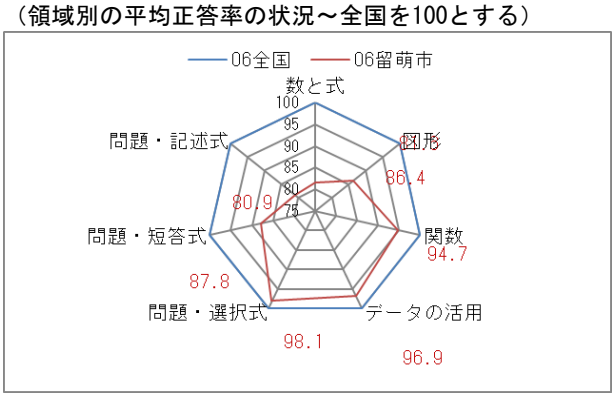
○楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書く

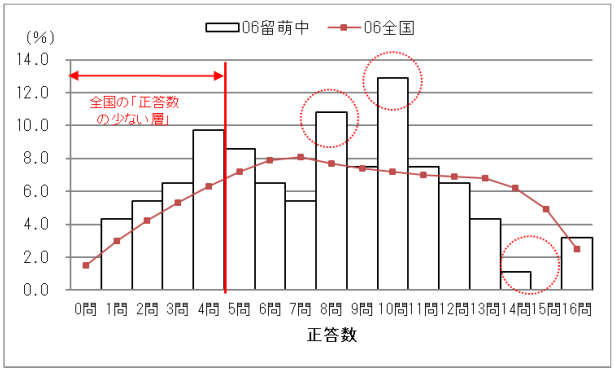
・直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書く必要がある。その際、楷書で書いた漢字と比較するなど、これまで学習してきたことを踏まえて指導することが大切である。

5　中学校数学

	平均正答数	平均正答率
留萌市	7.6問／16問	４７．４％
北海道	8.2問／16問	５１．０％
全　国	8.4問／16問	５２．５％

（領域別の平均正答率の状況～全国を100とする）





（１）　「領域別・問題別正答率」の傾向

◆「数と式」の領域は、全国と比べて相当低く、「図形」の領域は、全国と比べ低く、「関数」の領域は、全国と比べてやや低く、「データの活用」の領域は、全国と比べ同程度となっている。

◆選択式の問題は、全国と同程度であり、記述式の問題は、全国と比べて低く、短答式の問題は、全国と比べて相当低くなっている。

（２）　「正答数分布」グラフの傾向

◆16問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国の７問に対して10問である。

◆正答数が８問の生徒数の割合が、全国と比べてやや高く、正答数が10問の生徒数の割合が、全国と比べて高い。正答数が14問・15問の生徒数の割合は、全国と比べて低くなっている。

（３）　設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H31	３／16問
Ｒ３	９／16問
Ｒ４	10／14問
Ｒ５	５／15問
Ｒ６	４／16問

②平均正答率が全国以下の設問から（※３ポイント以上の差がある問題）

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と式	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる。	ｎを整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれｎを用いた式で表す。	１７．２％	３４．８％
数と式	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる。	等式６ｘ＋２ｙ＝１をｙについて解く。	３３．３％	５２．５％
関数	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる。	一次関数ｙ＝ａｘ＋ｂについて、ａ＝１、ｂ＝１のときのグラフに対して、ｂの値を変えずに、ａの値を大きくしたときのグラフを選ぶ。	４８．４％	６５．３％
データの活用	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる。	２枚の10円硬貨を同時に投げるとき、２枚とも裏が出る確率を求める。	６９．９％	７３．１％
数と式	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の２倍になることの説明を完成する。	３２．３％	３５．９％

数と式	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する。	３６．６％	４１．８％
データの活用	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる。	障害物からの距離が10ｃｍより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10ｃｍの位置から進んだ距離の最頻値を求める。	６８．８％	７４．３％
データの活用	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。	車型ロボットについて「速さが段階１から段階５まで、だんだん速くなるにつれて、10ｃｍの位置から選んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、５つの箱ひげ図を比較して説明する。	１７．２％	２５．９％
図形	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。	点Ｃを線分ＡＢ上にとり、線分ＡＢについて同じ側に正三角形ＰＡＣとＱＣＢをつくるとき、ＡＱ＝ＰＢであることを、三角形の合同を基に証明する。	１１．８％	２５．８％

◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇

【数と式】

○数量及び数量の関係を文字を用いた式で表すことができるようにする

・数量及び数量の関係を捉え説明する場面において、事象における数量や数量の関係を文字を用いた式で表すことができるように指導することが大切である。本問を使って授業を行う際には、連続する二つの偶数を文字を用いて表現する活動を取り入れることが考えられる。その際、ｎを整数としていることや、偶数とは２で割ったときに余りが０になる整数であることから、偶数を２ｎと表せることを確認することが大切である。

【数と式】

○等式の性質などに基づき、等式を変形できるようにする

・ある文字について解くことの意味を理解し、等式の性質などの根拠に基づいて等式を変形できるように指導することが大切である。本問を使って授業を行う際には、６ｘ＋２ｙ＝１をｙについて解くことは、ｙ＝□の形に変形することがあると確認する場面を設定することが考えられる。その上で、左辺の６ｘを右辺に移項することやｙの係数である２で両辺を割ることが、等式の性質を根拠にしていることを確認することが大切である。

【関数】

○一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解できるようにする

・一次関数ｙ＝ａｘ＋ｂのグラフについて、ａやｂの値の増減によってグラフが変化する様子を捉える活動を通して、式とグラフの特徴を関連付けて理解できるようにすることが大切である。本問を使って授業を行う際には、コンピュータを活用して、ｂの値を固定しａの値を変化させたり、ａの値を固定しｂの値を変化させたりしたときのｙ＝ａｘ＋ｂのグラフを観察する活動を取り入れることが考えられる。このような活動を通して、ａやｂの値の増減とグラフの変化の様子を関連付けて捉えることができるように指導することが大切である。

【データの活用】

○樹形図や二次元の表などを利用して起こり得る全ての場合を数え上げ、確率を求めることができるようにする

・同様に確からしいと考えられる起こり得る全ての場合を数え上げ、それを基にして確率を求めることができるように指導することが大切である。本問を使って授業を行う際には、２枚の硬貨を投げたときの表と裏の出方について、樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得る場合を落ちや重なりがないように数え上げる活動を取り入れることが大切である。

【数と式】

○事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明できるようにする

・事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の２倍になる」ことを説明するために、□に入る整数の和を表した式を２×（○に入れた整数の和）の形にすればよいという見通しをもち、それに沿って式を変形する場面を設定することが大切である。

【数と式】

○問題の条件を変えて考え、成り立つ事柄を見いだし数学的に表現できるようにする

・問題の条件を変えて見いだした事柄について、数学的に表現できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、正三角形の場合において「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の２倍になる」ことを考察した過程や結果を基にして、正三角形を正四面体に変えた場合に成り立つ事柄を説明する活動を取り入れることが考えられる。その上で、見いだした事柄を「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の３倍になる」のように「●●は、◆◆になる」という形で表現できるように指導することが大切である。

【データの活用】

○代表値の必要性と意味を理解し、代表値を求めることができるようにする

・目的に応じてデータを収集して分析し、データの傾向を読み取る活動において、データの代表値を求めることができるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、10ｃｍの位置から進んだ距離について調べた結果から代表値を求め、段階１の速さで進む車型ロボットが、10ｃｍの位置から進んで止まる距離の傾向について説明する場面を設定することが考えられ、小学校で学習した内容を振り返り、最頻値とは、データの中で最も多く現れている値であり、その値の個数を表すものではないことを確認することが大切である。

【データの活用】

○データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする

・データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、「速さの段階１から段階５まで、だんだん速くなるにつれて、10ｃｍの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と判断できる理由について、箱ひげ図を比較することで検討し、数学的な表現を用いて説明する場面を設定することが考えられ、「速さが段階１から段階５まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっているから」、「速さが段階１から段階５まで、だんだん速くなるにつれて、第１四分位数と第３四分位数が大きくなっているから」などのように、判断の理由を箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるようにすることが大切である。

【図形】

○証明の方針を立て、それに基づいて証明できるようにする

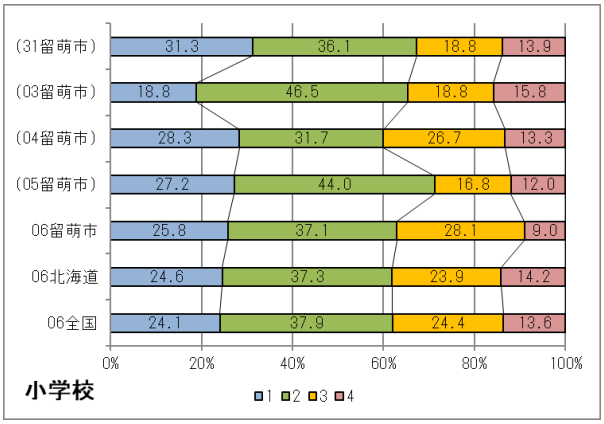
・事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行う際には、二つの線分が等しいことを証明するための方針を立て、それに基づいて証明する活動を取り入れることが考えられる。具体的には、ＡＱ＝ＰＢを導くために△ＱＡＣ≡△ＢＰＣを示せばよいことを明らかにし、△ＱＡＣと△ＢＰＣにおいて対応する辺や角の大きさについて分かることを整理したり、合同を示すために必要な関係を見いだしたりする場面を設定することが考えられ、ＡＱ＝ＰＢは結論であり、三角形の合同条件の根拠として用いることはできないことを確認することが大切である。

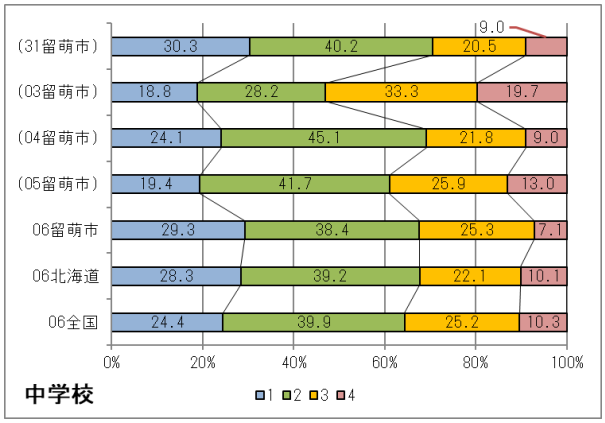
Ⅲ　質問紙調査結果の概要

1　学習に対する興味・関心や授業の理解度等＜児童生徒＞

（1）国語の勉強は好きですか

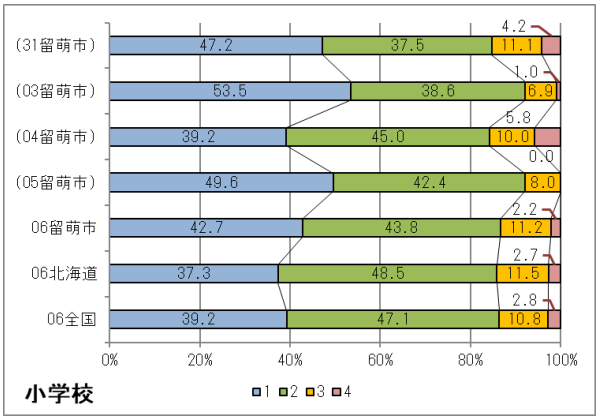
1　当てはまる　　2　どちらかといえば、当てはまる　　3　どちらかといえば、当てはまらない
4　当てはまらない

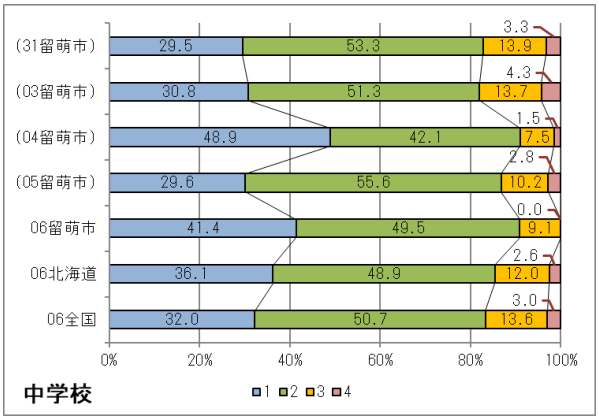




（2）国語の授業の内容はよく分かりますか

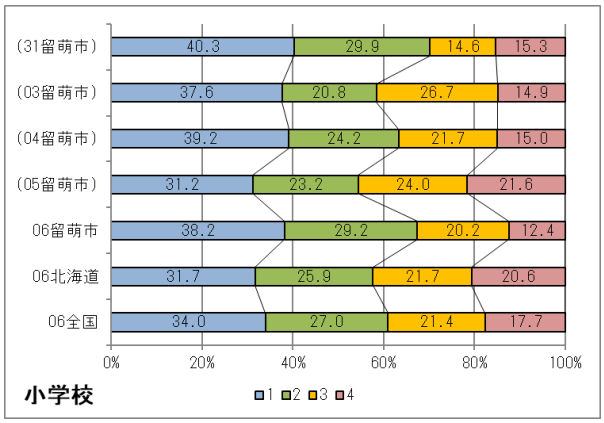
選択肢は（1）と同様

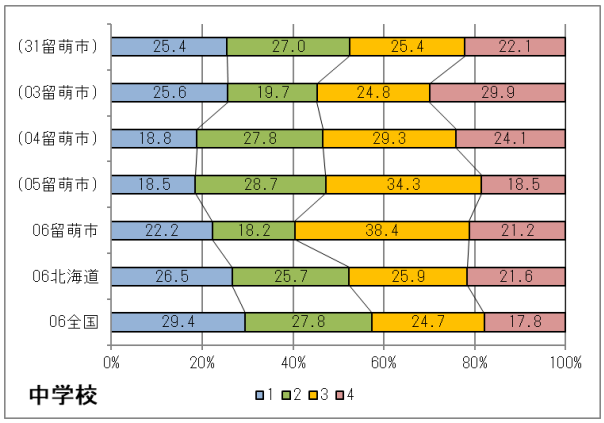




（3）算数(数学）の勉強は好きですか

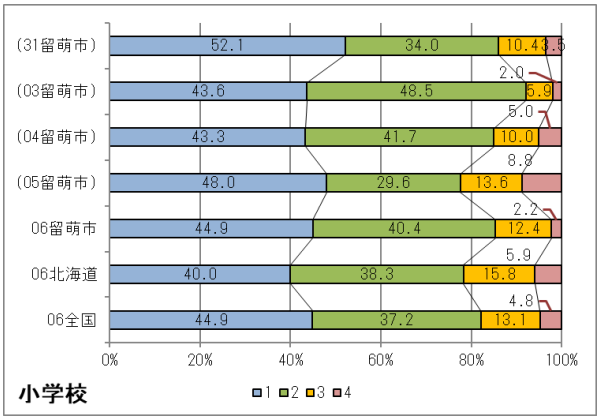
選択肢は（1）と同様

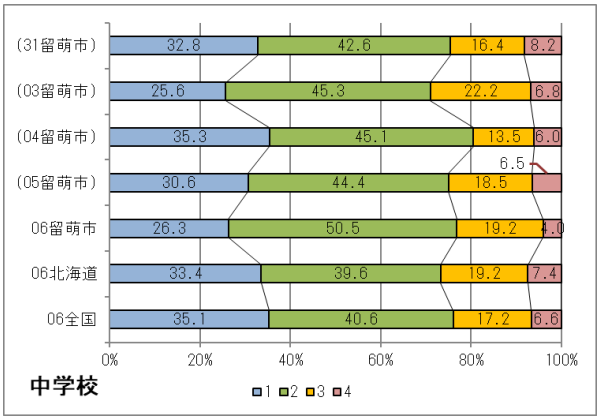




（４）算数(数学）の授業の内容はよく分かりますか

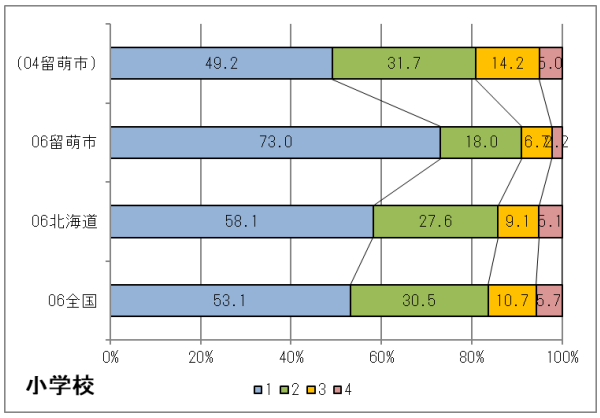
選択肢は（１）と同様

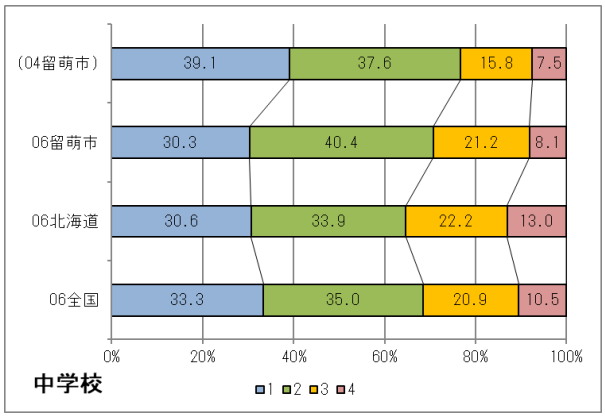




（５）理科の勉強は好きですか

選択肢は（１）と同様

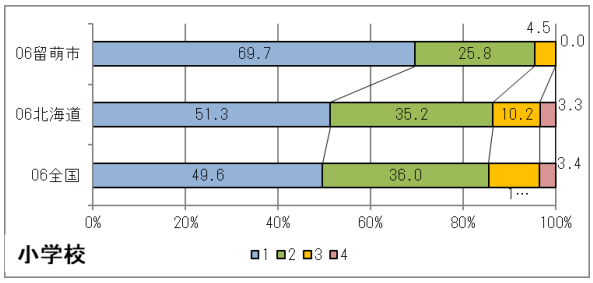


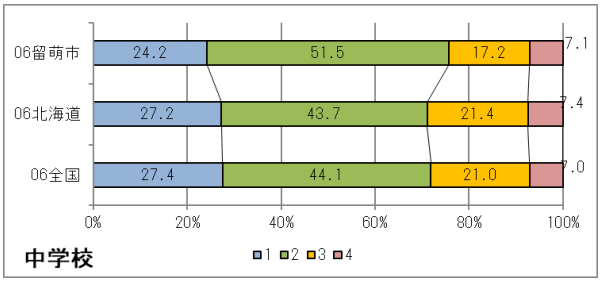


※平成 31 年度、令和３年度、令和５年度にはこの質問項目はない。

（６）理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

選択肢は（１）と同様





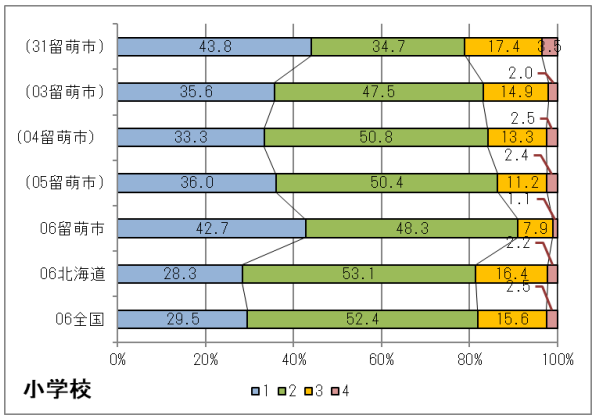
※令和６年度、新たな質問項目である。

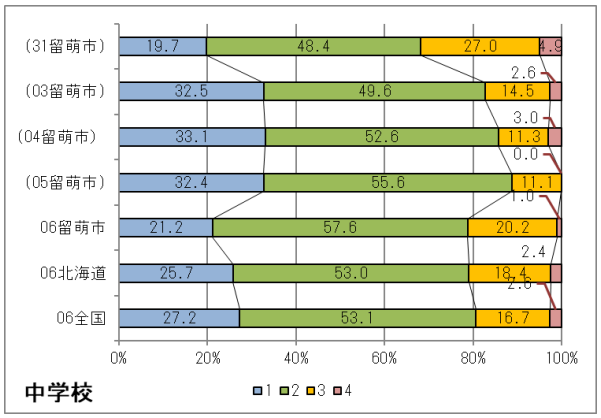
【小学校】
◆国語の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国と同程度であり、令和５年度より相当低い。
◆国語の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は、全国と同程度で、令和５年度より低い。
◆算数の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国より高く、令和５年度より相当高い。
◆算数の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや高く、令和５年度より相当高い。
◆理科の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和４年度より相当高い。
◆理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると肯定的に回答した児童の割合は、全国より相当高い。
【中学校】
◆国語の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや高く、令和５年度より高い。
◆国語の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和５年度より高い。
◆数学の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和５年度より低い。
◆数学の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は、全国と同程度で、令和５年度と同程度である。
◆理科の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国と同程度で、令和４年度より低い。
◆理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや高い。

２　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善等に関する取組状況＜児童生徒・学校＞

（１）５年生までに（１、２年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

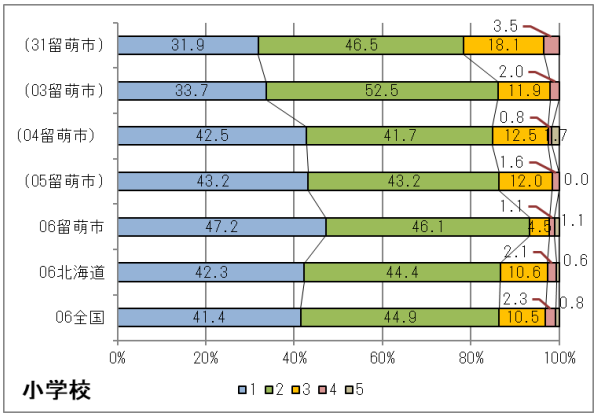
１　当てはまる　　２　どちらかといえば、当てはまる　　３　どちらかといえば、当てはまらない
４　当てはまらない

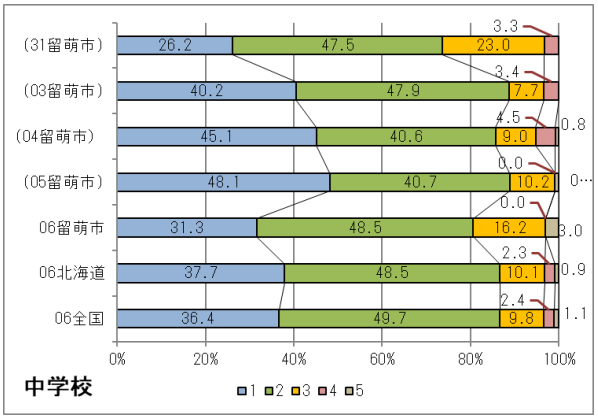




（２）学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

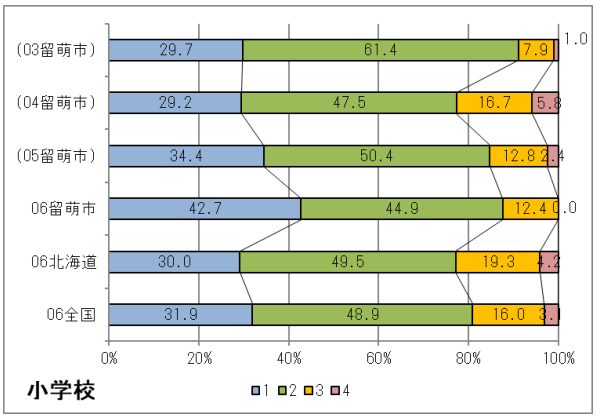
１　当てはまる　　２　どちらかといえば、当てはまる　　３　どちらかと言えば、当てはまらない
４　当てはまらない　　５　学級の友達と話し合う活動を行っていない





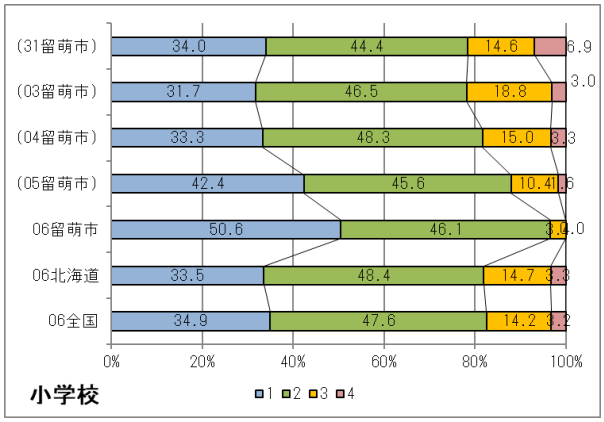
（３）学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

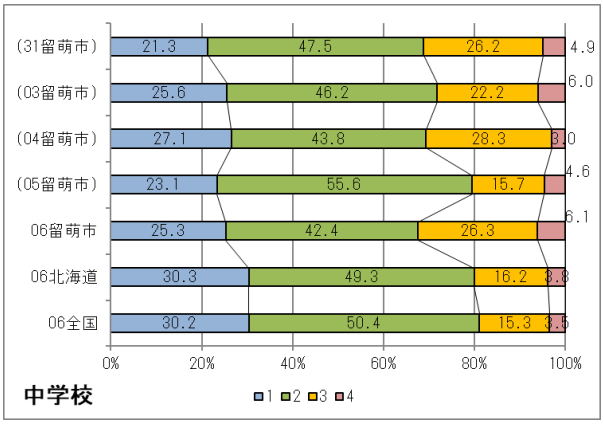
選択肢は（１）と同様



（４）学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

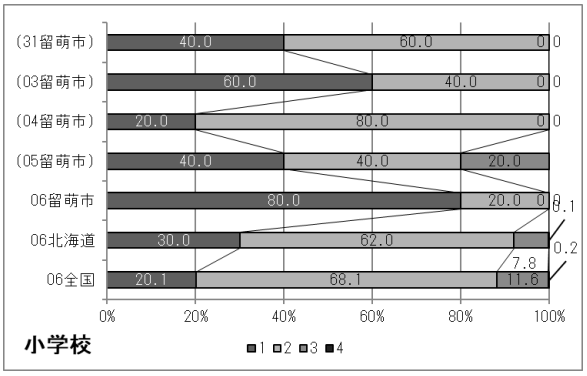
選択肢は（１）と同様

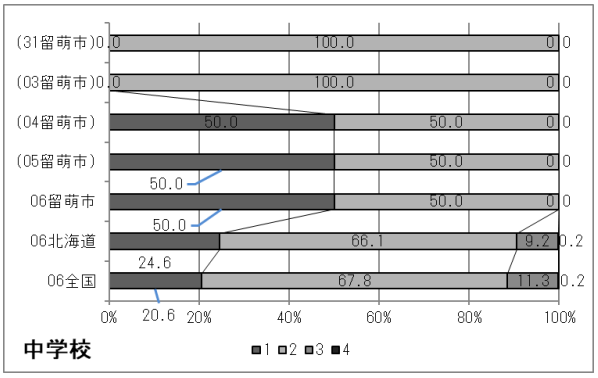




（５）調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

１　そう思う　　２　どちらかと言えば、そう思う　　３　どちらかといえば、そう思わない
４　そう思わない





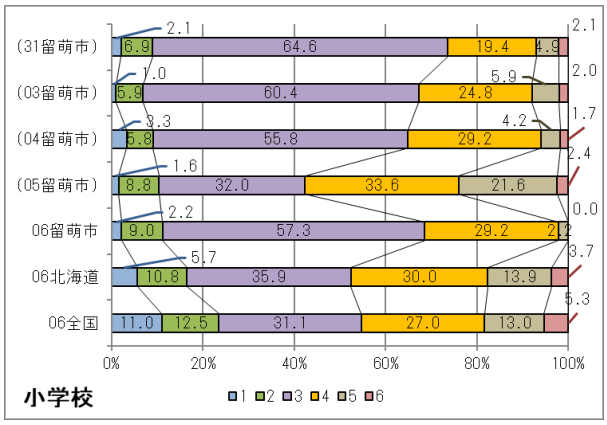
【小学校】
◆５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思うと回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和５年度よりもやや高い。
◆学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和５年度より高い。
◆学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合は、全国より高く、令和５年度と同程度である。
◆学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和５年度と比べて相当高い。
◆調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと８０％の学校が回答している。

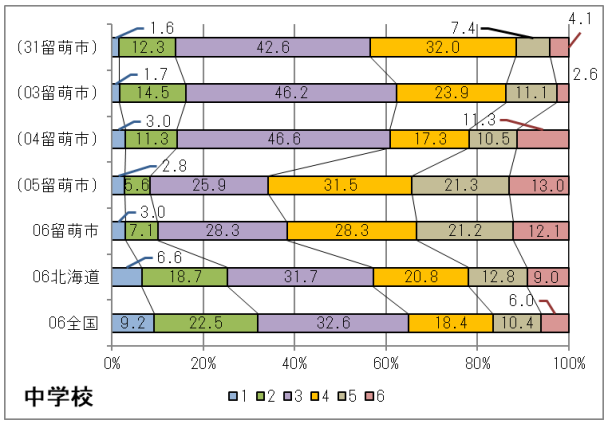
【中学校】
◆１、２年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思うと回答した生徒の割合は、全国と同程度で、令和５年度よりも相当低い。
◆学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した生徒の割合は、全国より低く、令和５年度より相当低い。
◆学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒の割合は、全国よりやや低く、令和５年度よりやや低い。
◆学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和５年度より相当低い。
◆調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと５０％の学校が回答している。

３　望ましい学習習慣等の確立＜児童生徒＞

（１）学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

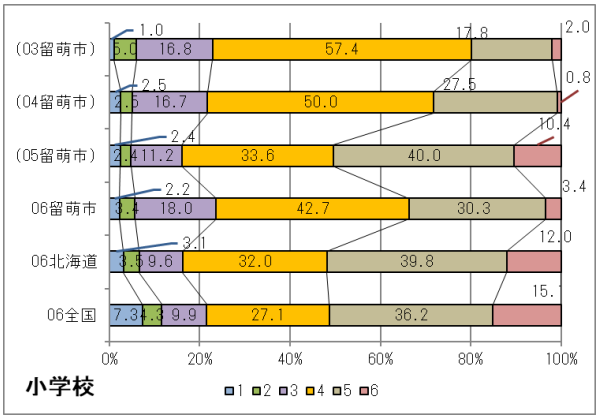
１　３時間以上　　２　２時間以上、３時間より少ない　　３　１時間以上、２時間より少ない
４　30分以上、１時間より少ない　　５　30分より少ない　　６　全くしない

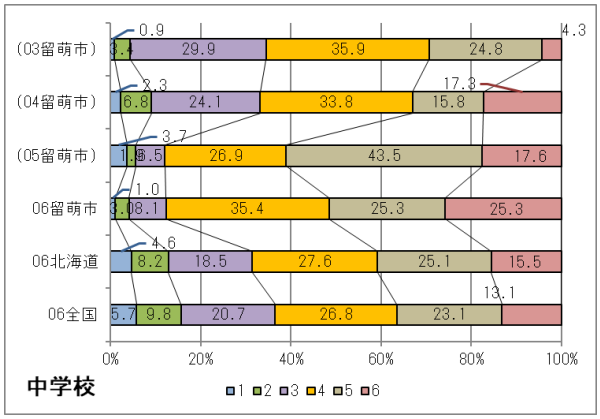




（２）学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

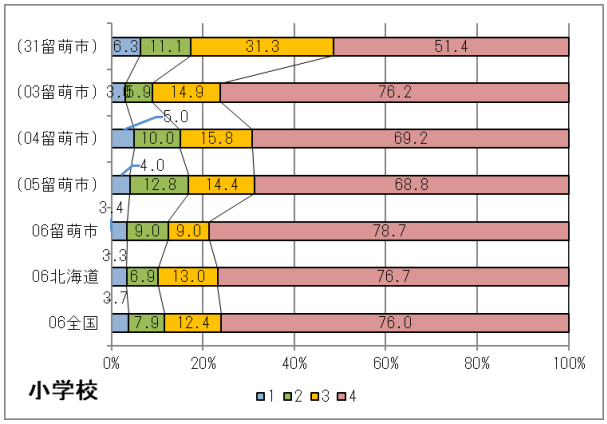
１　３時間以上　　２　２時間以上、３時間より少ない　　３　１時間以上、２時間より少ない
４　30分以上、１時間より少ない　　５　30分より少ない　　６　全くしない

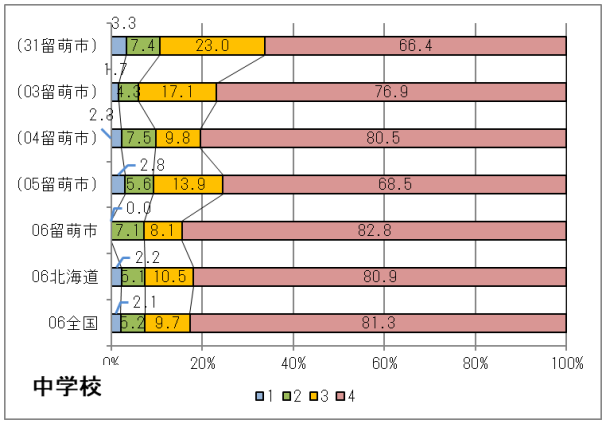




（３）新聞を読んでいますか

１　ほぼ毎日読んでいる　　２　週に１～３回程度読んでいる　　３　月に１～３回程度読んでいる
４　ほとんど、または、全く読まない



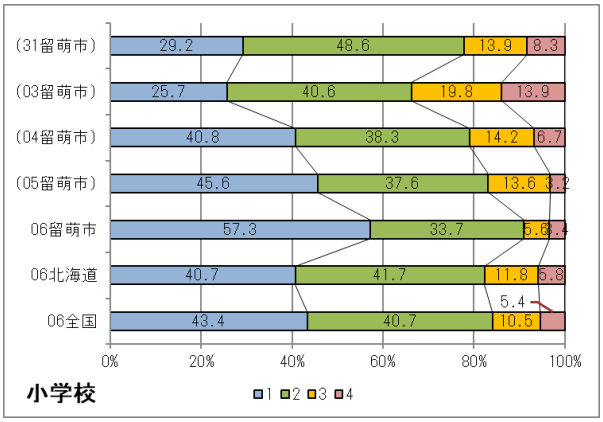


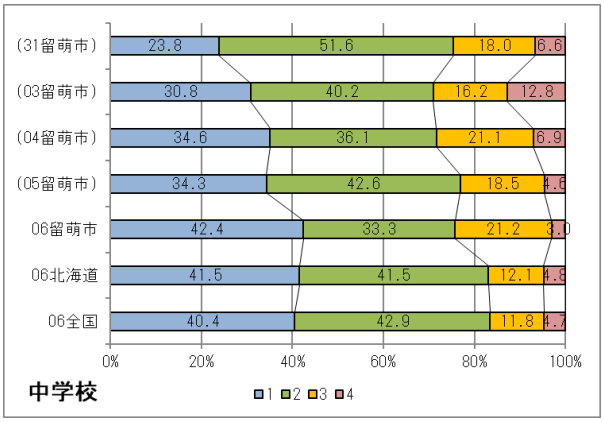
【小学校】
◆普段（月～金曜日）、１日当たり１時間以上勉強をすると回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和５年度より相当高い。
◆学校が休みに日に、１日当たり１時間以上勉強をすると回答した児童の割合は、全国と同程度で、令和５年度より相当高い。
◆新聞を読んでいると回答した児童の割合は、全国と同程度で、令和５年度よりやや低い。
【中学校】
◆普段(月～金曜日)、１日当たり１時間以上勉強をすると回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和５年度よりやや高い。
◆学校が休みの日に、１日当たり１時間以上勉強をすると回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和５年度と同程度である。
◆新聞を読んでいると回答した生徒の割合は、全国と同程度で、令和５年度と同程度である。

４　規範意識、自己有用感等＜児童生徒＞

（１）自分には、よいところがあると思いますか

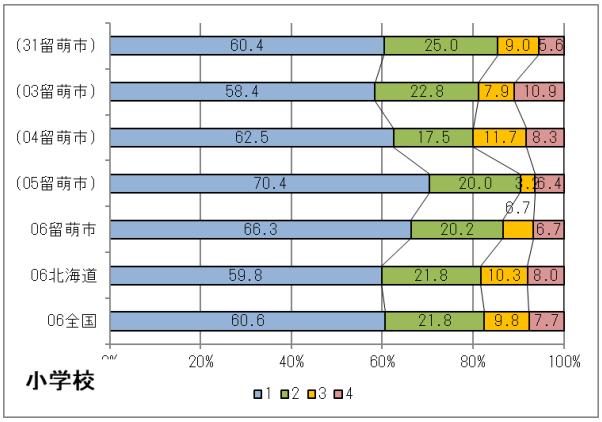
１　当てはまる　　２　どちらかといえば、当てはまる　　３　どちらかといえば、当てはまらない
４　当てはまらない

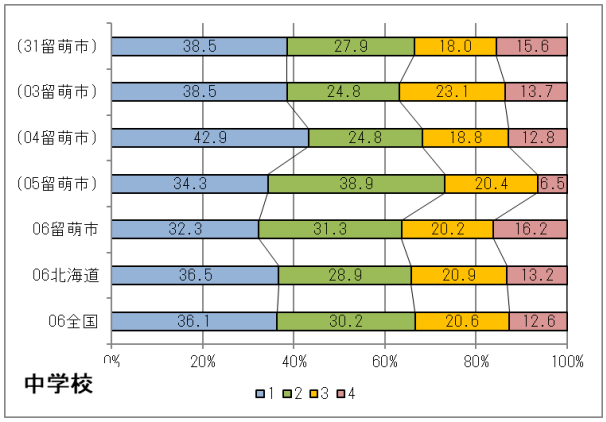




（２）将来の夢や目標を持っていますか

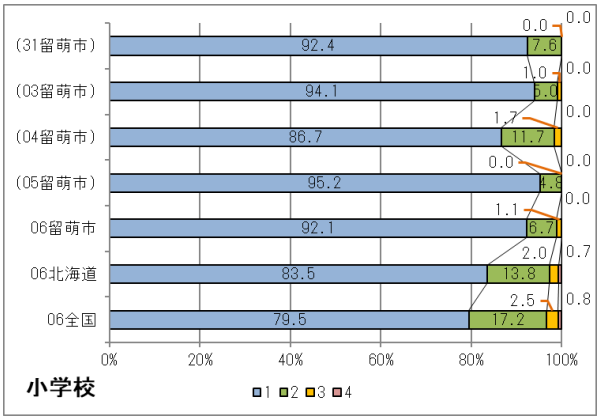
選択肢は（１）と同様

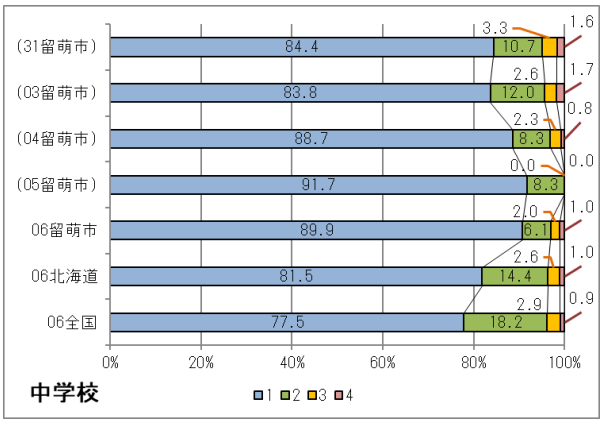




（３）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

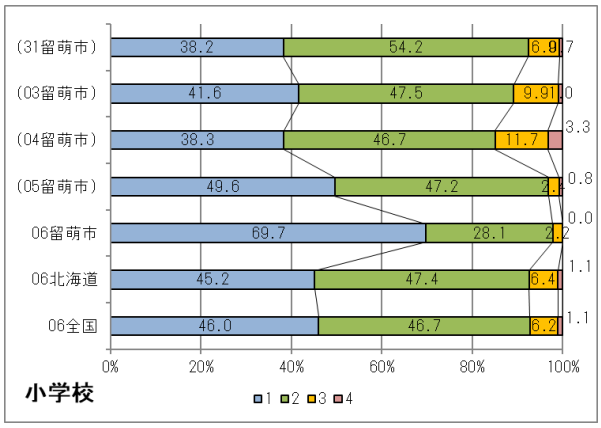
選択肢は（１）と同様

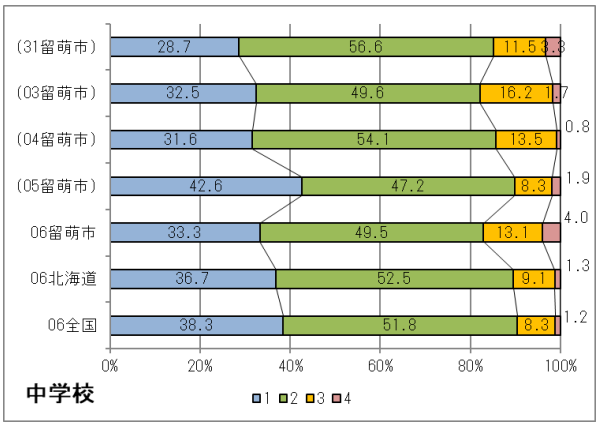




（４）人が困っているときは、進んで助けていますか

選択肢は（１）と同様





【小学校】

◆自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童の割合は、全国より高く、令和５年度より相当高い。

◆将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや高く、令和５年度よりやや低い。

◆いじめはどんなことがあってもいけないことだと、98.8％の児童が肯定的に回答している。

◆人が困っているときは、進んで助けていると肯定的に回答した児童の割合は、全国より高く、令和５年度と同程度である。

【中学校】

◆自分にはよいところがあると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和５年度と同程度である。

◆将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国と同程度で、令和５年度より相当低い。

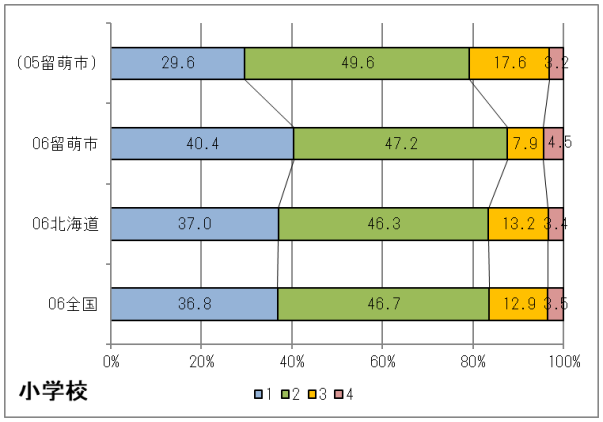
◆いじめはどんなことがあってもいけないことだと、96％の生徒が肯定的に回答している。

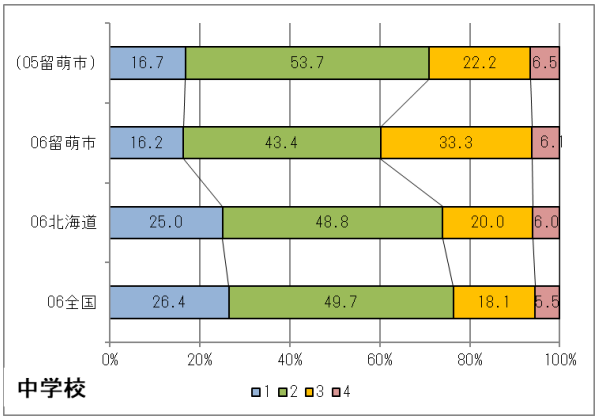
◆人が困っているときは、進んで助けていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和５年度より相当低い。

５　地域や社会に関する活動の状況＜児童生徒＞

（１）地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

１　当てはまる　　２　どちらかといえば、当てはまる　　３　どちらかといえば、当てはまらない
４　当てはまらない



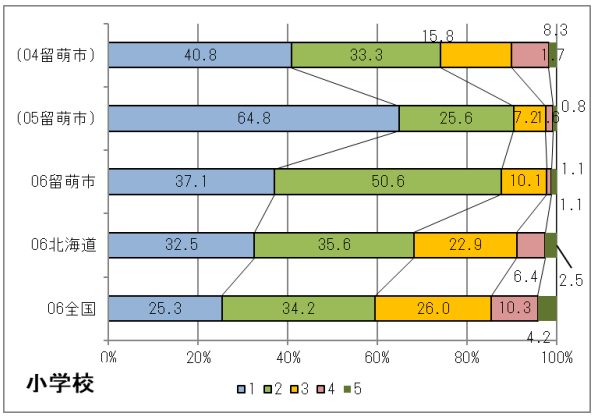


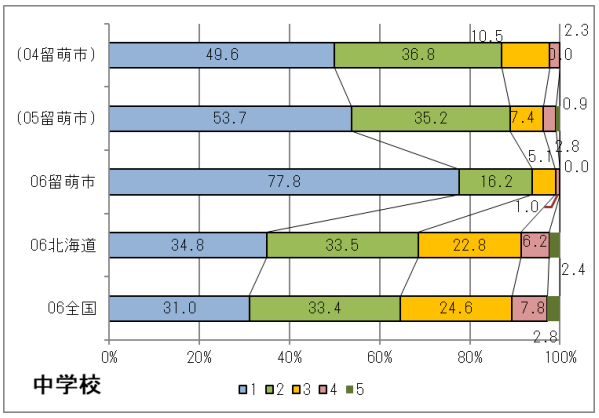
【小学校】
◆地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや低く、令和５年度より相当高い。
【中学校】
◆地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和５年度より相当低い。

６　ＩＣＴを活用した学習状況＜児童生徒＞

（１）５年生（１、２年生のとき）までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか

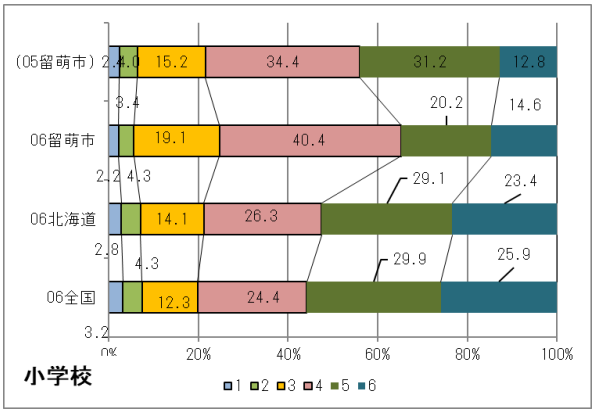
１　ほぼ毎日　　２　週３回以上　　３　週１回以上　　４　月１回以上　　５　月１回未満

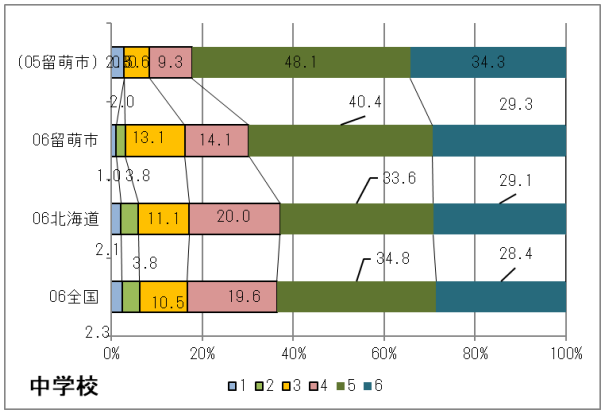




（２）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）

１　３時間以上　　２　２時間以上、３時間より少ない　　３　１時間以上、２時間より少ない
４　３０分以上、１時間より少ない　５　３０分より少ない　６　全く使っていない



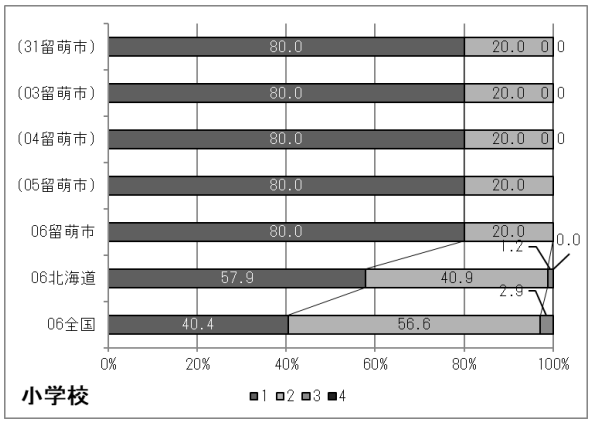


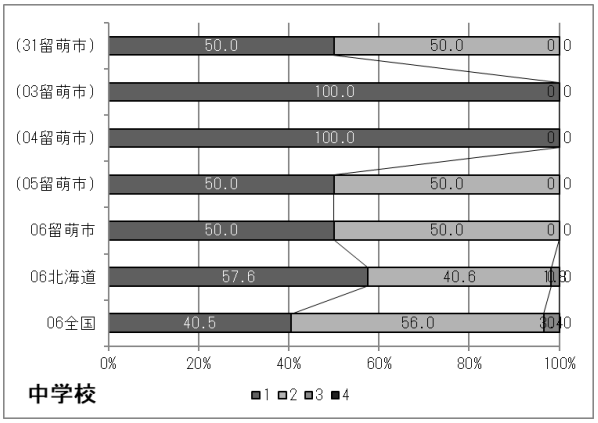
【小学校】
◆５年生までに受けた授業では、週３日以上ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用したと回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和５年度と同程度である。
◆学校の授業時間以外に、１日当たり１時間以上ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を勉強のために使っていると回答した児童の割合は、全国よりやや高く、令和５年度よりやや高い。
【中学校】
◆２年生までに受けた授業では、週３日以上ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用したと回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和５年度より高い。
◆学校の授業時間以外に、１日当たり１時間以上ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を勉強のために使っていると回答した生徒の割合は、全国と同程度で、令和５年度より相当高い。

７　その他＜学校＞

（１）児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立していますか

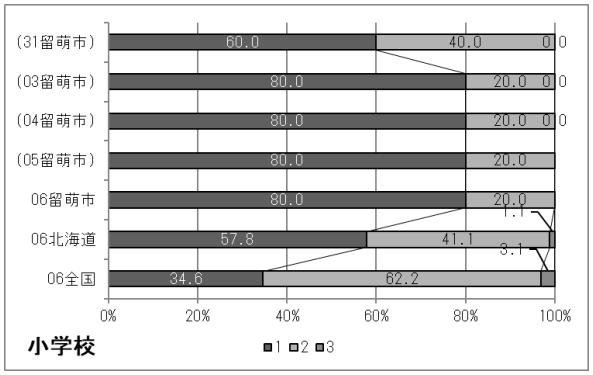
１　よくしている　　２　どちらかといえば、している　　３　あまりしていない　　４　全くしていない

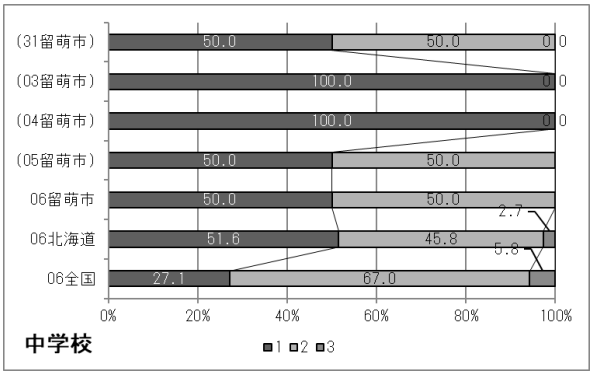




（２）令和５年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

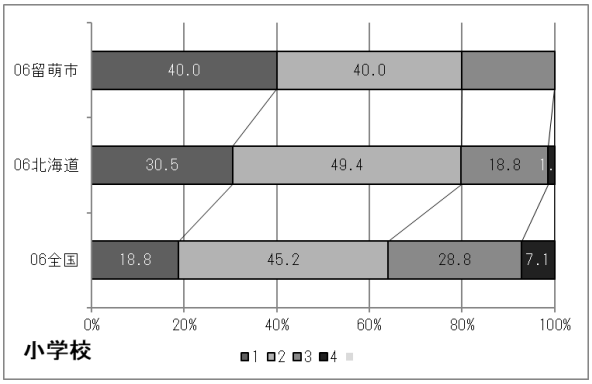
１　よく行った　　２　行った　　３　ほとんど行わなかった

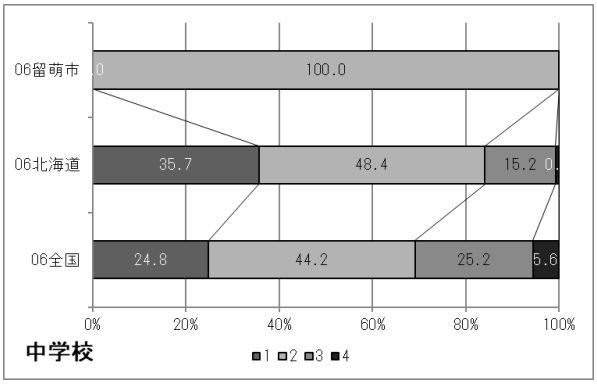




（３）前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか

１　よく行った　　２　どちらかといえば、行った　　３　あまり行わなかった
４　全く行わなかった





【小学校】
◆児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを全ての学校で確立している。
◆令和５年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
◆前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行っていると８０％の学校が回答している。
【中学校】
◆生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを全ての学校で確立している。
◆令和５年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
◆前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行っていると全ての学校が回答している。

Ⅳ　おわりに

令和６年度全国学力・学習状況調査は、国語、算数・数学が実施されました。本書は、全国学力・学習状況調査の目的から、留萌市の児童生徒の学力・学習状況を把握・分析してまとめ、報告としたものです。報告書の作成に当たっては、調査の結果が学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを十分に踏まえた上で、留萌市の学力の全体的な傾向や児童生徒質問紙・学校質問紙調査から見える特徴的な状況等について記載しています。

各小中学校では、児童生徒の学力向上に向けて、「学校改善プランの立案と実行」「学校で統一した授業スタイルや学習規律の確立」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「一人一台端末等のＩＣＴ機器の効果的な活用等、指導方法の工夫改善」など、様々な取組を鋭意推進しています。特に、一人一台端末の効果的な活用に向けて、全校的な広がりを目指した研修と日常実践に精力を注いでいるところです。また、令和４年度に導入したＡＩ型教材「Qubena（キュビナ）」を活用して、児童生徒一人一人に応じた学びの実現にも努め、学習効果の一層の高まりを目指してきました。

今年度は、小学校の国語が全国の平均正答率を１．８ポイント、小学校の算数は０．５ポイント上回りましたが、中学校の国語では５．６ポイント、中学校の数学では５．１ポイント下回る結果となりました。小学校は全ての教科で平均正答率が全国平均を上回る結果となったものの、中学校は全ての教科で平均制問い率が全国平均と比べ低い状況となりました（全国との差にかかわる表現については北海道教育委員会の分類基準による）。一方、児童生徒質問紙・学校質問紙調査の結果からは、学習内容の確実な定着のために学校と家庭・地域の共通理解のもと、引き続き学習習慣を確立できるよう家庭学習に関する取組を進めていくことが求められます。

こうした課題の解決に向けて、自ら考え、自ら進んで取り組む態度の育成を図るとともに、学習した内容を自ら振り返り、補充的・発展的な学びにつなげられるように小学校と中学校が連携し、９年間を見通して、学力向上と生徒指導の両面から目標を共有して指導に当たることが重要であると考えます。また、あらゆる環境が常に変化して複雑さを増した現代、新たな時代にふさわしい教育を構想し、着実な実践を積み上げていかなければなりません。

将来を担う児童生徒一人一人に「生きていくために未来を切り拓いていく資質・能力」を身に付けさせることが、学校教育に携わる者の責務と考えます。今後も、各小中学校と教育委員会において、「今、目の前にいる子どもたち」の課題を改めてしっかり分析し、学校・家庭・地域が連携協働しながら改善・解決に取り組んで参りますので、引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。